

日本臨床麻酔学会 第45回大会への軌跡

大会長奮闘記⑧「共催セミナー」

新年度を迎え「いよいよだな」と気を引き締めています。

日本臨床麻酔学会 第45回大会の準備は佳境に入っています。というのも、企業共催セミナーや展示に関する締め切りが目前に迫っているのです。なかでも共催セミナーは、1セッションで数百人分の参加費に相当するご支援をいただくこととなりますので、学会運営を支えるうえで極めて重要な柱です。

今回の共催セミナーの目標は20セッションとしました。これは第44回大会（東京）が20セッション、第43回（宮崎）が22セッションと、過去の実績を踏まえて設定した数字です。しかし、昨今の経済情勢や医療業界の動向もあり、目標達成は

容易ではありません。3月末時点で確定しているのは13セッションと、まだ道半ばです。苦戦が続き、事務局の緊張感も日に日に高まっていますが、過去にご協力いただいた実績があり検討中の企業や、口頭で前向きなお返事をいただいている企業など、可能性のある候補は多数ありますので、ここが踏ん張りどころと、事務局から再度のご連絡を差し上げているところです。新年度という節目を追い風に、あとひと押しふた押し。学会にかかわる多くの皆さまのお力をお借りしながら、一歩ずつ着実に進めています。

企業の皆さまがご支援くださる理由は、単なる経済的メリットにとどまりません。**医学・医療の発展に貢献**したいという思いで学術集会を支えてくださる姿勢にあらためて深く感謝申し上げます。

（上村 友二、祖父江 和哉）